

■ 概況

8/31～9/6のNYMEX・WTI先物市場は83.63～87.54ドルの範囲で推移した。

9月7日は、中国の8月の貿易統計が軟調で、先行き不安が高まり、10営業日ぶりに反落した。ただ、米国の先週末の在庫統計が、原油・ガソリンともに予想を上まわる取り崩しで、需給ひっ迫感もあり、底値は固かった。10月物終値は前日比0.67ドル安の86.87ドル。

週末8日は、一転、4日のサウジ・ロシアの年内の自主減産継続発表で、先行き需給ひっ迫感が戻り、反発した。10月物終値は同0.64ドル高の87.51ドル。

週明け11日は、売り買いが交錯したが、先行き需要減少懸念・利益確定売りもあり、反落した。ただ、先行き需給ひっ迫観測に加え、リビア東部の豪雨による供給不安もあり、底値は固かった。10月物終値は同0.22ドル安の87.29ドル。

12日は、OPEC月報が2023年の堅調な石油需要見通しを維持、米国エネルギー情報局(EIA)が本年第4四半期の原油価格見通しを上方修正するなど、需給ひっ迫感が拡大、反発した。10月物終値は、前日比1.55ドル高の88.84ドル。

13日は、米国石油在庫統計の原油・ガソリンとも予想に反した積み増しで、反落した。ただ、依然、供給ひっ迫観測は根強く、底値は限られた。10月物終値は前日比0.32ドル安の88.52ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、8月31日～9月6日の間、86.50～90.90ドルの範囲で推移。9月7日91.40ドル、8日90.60ドル、11日91.50ドル、12日92.00ドル、13日93.10ドル。

対ドル為替レート(TTM)は、8月31日～9月6日の間、145.73～147.86円の範囲で推移。9月7日147.94円、8日147.01円、11日146.97円、12日146.72円、13日147.32円。

財務省が9月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、73,900円で、前旬比2,510円高、ドル建て82.59ドルで前旬比1.57ドル高、為替レートは1ドル/142.23円。

そのような中で、9月11日時点の価格は、ガソリンが前週比1.7円の値下がり、軽油も同1.5円の値下がり、灯油は同17円の値下がり(18リットルベース)。ガソリンは18週ぶりの値下がり、軽油と灯油は17週ぶりの値下がり、ガソリンの全国平均価格は184.8円となった。

9月7日から燃料油価格激変緩和補助金は延長・拡充され、9月14日～20日の補助金の支給額は26.1円(従来ベースの補助額38.0円、17円以下部分は30%支給で5.1円、17円を超える部分は100%支給で21.0円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/3 ~ 9/9	2,849 ▼ -154	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	76.9 ▼ -4.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/9	11,496 ▼ -69	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/11	89.80 ▲ 1.69	▲ 0.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/11	87.29 ▲ 0.60	▼ -0.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	82.59 ▲ 1.57	▼ -29.87
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	73,900 ▲ 2,510	▼ -21,754
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	142.23 ▼ -2.14	▼ -7.01
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	9/11	147.97 ▼ -0.70	▼ -4.15

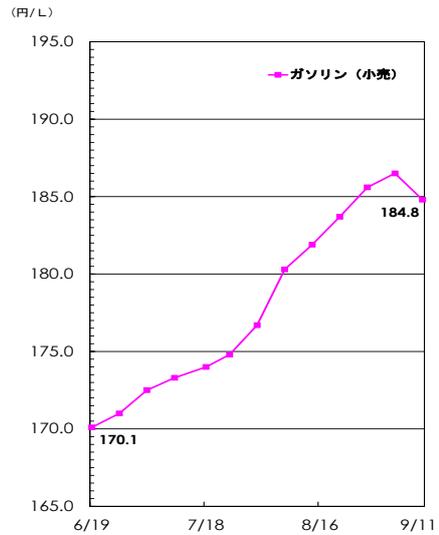
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/3 ~ 9/9	926 ▲ 86	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	665 ▼ -160	▼ -	
	輸出	"	91 ▲ 19	▲ -	
	在庫	9/9	1,592 ▲ 170	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/5 ~ 9/11	85.3 ▼ -5.7	▲ 7.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/5 ~ 9/11	90.0 ▲ 1.0	▲ 11.0
		(TOCOM/中部)	9/11	87.5 ▼ -4.0	▲ 10.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/11	184.8 ▼ -1.7	▲ 14.7	

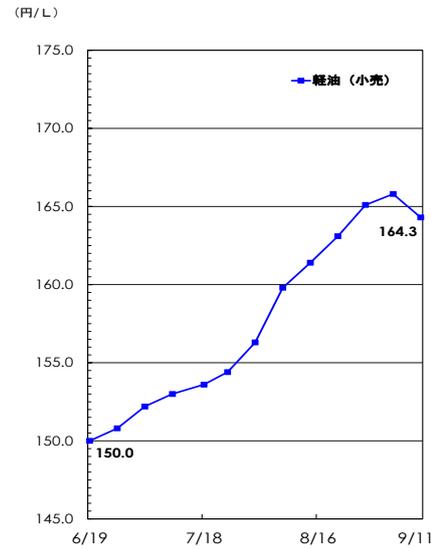
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

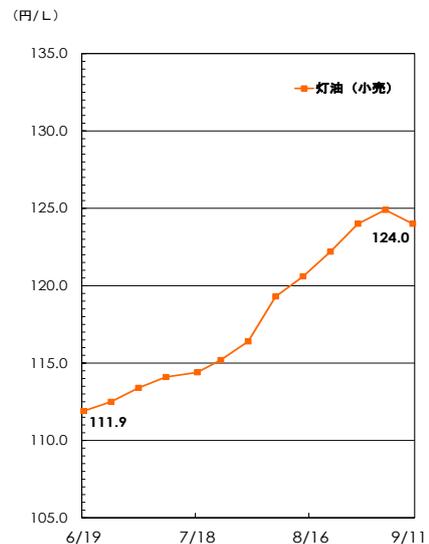
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/3 ~ 9/9	765 ▼ -25	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	596 ▼ -40	▼ -	
	輸出	"	195 ▲ 68	▲ -	
	在庫	9/9	1,415 ▼ -26	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/5 ~ 9/11	86.6 ▼ -3.6	▲ 9.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/5 ~ 9/11	91.0 ▼ -3.1	▲ 11.1
		(TOCOM/中部)	9/11	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/11	164.3 ▼ -1.5	▲ 14.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/3 ~ 9/9	224 ▼ -47	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	38 ▲ 5	▼ -	
	輸出	"	50 ▼ -23	▲ -	
	在庫	9/9	2,491 ▲ 137	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/5 ~ 9/11	87.0 ▼ -3.1	▲ 8.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/5 ~ 9/11	88.0 ▲ 0.4	▲ 9.7
		(TOCOM/中部)	9/11	86.2 ▼ -4.0	▲ 9.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/11	124.0 ▼ -0.9	▲ 11.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(9月7日~13日)のWTI石油先物市場は、7日に10営業日ぶり反落の86.87ドルで始まったものの、不安定な動きを示し、12日には昨年11月以来の約10か月ぶり高値88.84ドルを記録し、13日、の88.52ドルで終わった。4日のサウジ・ロシアによる年末までの追加自主減産継続の正式発表で、需給ひっ迫懸念が強い中、今後の米中の景気観測の見方が分かれている。

一日遅れの9月7日発表の1日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比550万バレル減、ガソリンが同270万バレル減と市場予想を上回る取り崩しであった。また、13日発表の8日時点での同統

計は、原油が前週比400万バレル増、ガソリンが同560万バレル増と市場予想に反する積み増しであった。

EIAによると、9月11日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値上がりの1ガロン3.822ドル(149.2円/ℓ)と3週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.8セント高と8週連続の値上がりの1ガロン4.540ドル(177.3円/ℓ)。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、9月8日時点で、前週比1基増の513基と4週ぶりの増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年9月3日~9月9日に休止したトッパー能力は42.6万バレル/日で、前週に対して10.7万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は284.9万klと、前週に比べ15.4万kl減少。前年に対しては32.3万klの減少。トッパー稼働率は76.9%と前週に対して4.1ポイントの減少、前年に対しては5.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリンが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/10.3%増、ジェット/12.5%減、灯油/17.3%減、軽油/3.1%減、A重油/2.1%減、C重油/26.7%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は19.5万kl(前週比6.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は66.5万kl(対前週19.4%減)と2週振りに減少した。ジェット0.3万kl(対前週95.4%減)、灯油3.8万kl(対前週15.5%増)、軽油59.6万kl(対前週6.4%減)、A重油13.3万kl

(対前週14.8%減)、C重油14.7万kl(対前週2.7%減)。

(単位:千kl)

	今週 (9/3 ~ 9/9)	前週 (8/27 ~ 9/2)	前週比
ガソリン	665	825	▼ -160 (-19%)
ジェット燃料	3	74	▼ -71 (-96%)
灯油	38	33	▲ 5 (15%)
軽油	596	636	▼ -40 (-6%)
A重油	133	157	▼ -24 (-15%)
C重油	147	152	▼ -5 (-3%)
合計	1,582	1,877	▼ -295 (-16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月9日時点の在庫はガソリン、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンと軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは159.2万kl、前週差17.0万kl増。前年に対しては0.2万kl少ない。

灯油は249.1万kl、前週差13.7万kl増。前年に対しては44.9万kl多い。

軽油は141.5万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては5.0万kl少ない。

A重油は77.4万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては5.5万kl多い。

C重油は209.8万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては30.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (9/9)	前週 (9/2)	前週比
ガソリン	1,592	1,422	▲ 170 (12%)
ジェット燃料	836	855	▼ -19 (-2%)
灯油	2,491	2,354	▲ 137 (6%)
軽油	1,415	1,441	▼ -26 (-2%)
A重油	774	754	▲ 20 (3%)
C重油	2,098	2,149	▼ -51 (-2%)
合計	9,206	8,975	▲ 231 (2.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月5日～11日のドル建て中東原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸価格建値は3.5円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額17.4円を加え、今週の補助金26.1円を差し引いた、9/14～9/20の実質卸価格は5.2円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月5日～11日の製品スポット市況は、8月29日～9月4日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物の値上りを除いて、他の全ての取引で値下がりがした。

直近週(9/5～9/11)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/29～9/4)比で、ガソリンは5.7円の値下がり、灯油も3.1円の値下がり、軽油も3.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/5～9/11)に、前週(8/29～9/4)比で、ガソリンは5.7円の値下がり、灯油も3.7円の値下がり、軽油は5.2円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油も0.4円の値上がり、軽油は3.1円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (9/5～9/11)	前週 (8/29～9/4)	前週比	
レギュラー	85.3	91.0	▼ -5.7	
灯油	87.0	90.1	▼ -3.1	
軽油	86.6	90.2	▼ -3.6	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値[平均])	今週 (9/5～9/11)	前週 (8/29～9/4)	前週比	
レギュラー	90.0	89.0	▲ 1.0	
灯油	88.0	87.6	▲ 0.4	
軽油	91.0	94.1	▼ -3.1	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/5～9/11実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -5.7	▲ 1.0	▼ -2.3	
灯油	▼ -3.1	▲ 0.4	▼ -1.4	
軽油	▼ -3.6	▼ -3.1	▼ -3.4	
A重油	▼ -2.7			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.7円安の184.8円、軽油も1.5円安の164.3円、灯油も18%ペースで17円安の223.2円(1%ペースでは0.9円安の124.0円)。ガソリンは18週ぶりの、軽油・灯油は17週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは5県、横ばいは1県、値下がり41都道府県だった。全国最安値は岩手県の179.7円、その次は徳島県の179.8円であった。他方、最高値は長崎県の192.5円だった。最も値上がりしたのは大分県と高知県(前週比0.5円高)、横ばいは佐賀県、最も値下がりしたのは福井県(同5.1円安)だった。

次回調査時(9/19)のガソリンの小売価格は、補助金の拡充により、値下がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]	今週 (9/11)	前週 (9/4)	前週比	直近高値	
レギュラー	184.8	186.5	▼ -1.7	23/9/4	186.5
灯油	124.0	124.9	▼ -0.9	08/8/11	132.1
軽油	164.3	165.8	▼ -1.5	08/8/4	167.4

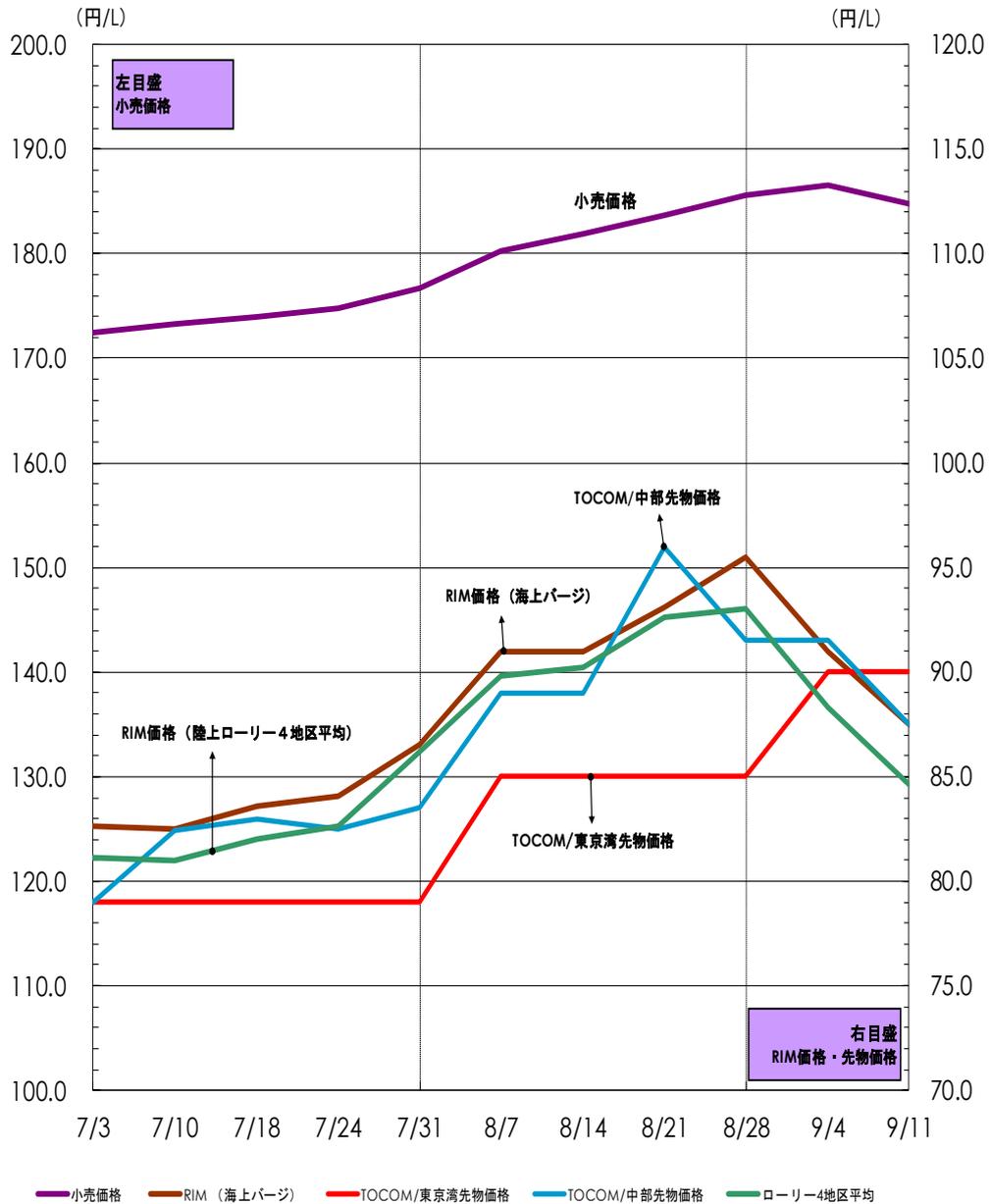
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/7/3 ~ 2023/9/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2023第23号) の公表は、9/22 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。